

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月26日

【評価実施概要】

事業所番号	4570300451		
法人名	社会福祉法人みのり会		
事業所名	グループホームみのり園		
所在地	宮崎県延岡市岡元町515番地4 (電話) 0982-38-0340		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成22年1月14日	評価確定日	平成22年2月26日

【情報提供票より】(平成21年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)11年12月26日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤5人, 非常勤2人,	常勤換算5.75人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,380 円

(4) 利用者の概要(平成21年12月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0	要介護2	1		
要介護3	2	要介護4	4		
要介護5	2	要支援2	0		
年齢	平均 89 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤本内科小児科医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣の住宅から少し離れた高台に昭和57年に特別養護老人ホームを開設。平成7年から介護保険事業の居宅介護支援、デイサービス、ホームヘルプサービスを開始し、グループホームは平成11年に開設されている。「社会・地域における福祉の発展・充実を使命とし、利用者・家族に安心・満足のサービス提供を通して社会貢献に寄与する」の運営理念の下、全職員が月2回参加の法人内研修、一斉昼食による交流が事業所間の協同や連携をスムーズにさせ、介護職員も「人となり」を共有し、常に質の高い介護を目指している。また、災害時の避難所、夏祭りや花火大会への招待等、地域との交流を深めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 昨年度の課題となった項目の運営推進会議録の保存については、改善されていた。ホーム利用者と地域との交流を推進するために、委員に自治会や高齢者代表を加えることについては、民生委員が実情に詳しいということで現状のままとされている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ミーティングにおける職員の意見を管理者が集約して評価票に記入している。職員は評価の意義を理解し、評価結果を真摯に受け止め、更なる向上に取り組んでいるが、特に今回は提出時期の諸事情により、記入内容の再検討や確認が十分されなかった。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ホームからは、行事計画や実施の状況報告、利用者の現状報告が主な内容であり、課題事項を設定した協議や提言が少ないので、協議事項や資料の事前配布などの検討を行っている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からの積極的な意見は少ないが、来訪時や電話の機会に引き出すようにしている。要望に対しては、実現可能であれば早急に実施している。骨折した利用者の入院期間中は、ホームが家政婦を依頼して利用者や家族の不安の軽減に対処した。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム開設当時と比較すると、利用者の加齢に伴う介護度も高くなり、ホーム単独での地域との交流は、買い物やドライブ程度と少なくなっている。法人主催の夏祭り、花火大会には地域住民の参加も多く、ホームの利用者も参加して交流に努めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の信頼と安心に基づき、明るく楽しく、家庭的に親身になって、人権を尊重したサービスの提供」を理念としていることは、法人の運営理念にも基づいたものでもある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は、理念の共有と実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の夏祭り、花火大会には地域の参加も多く、利用者も参加している。ホーム単独では、買い物やドライブ、ふる里訪問を通して、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は、運営者（園長）をはじめ、管理者及び職員が理解している。課題となった項目の改善や、外部評価時の意見も、積極的に業務に反映させている。		

宮崎県延岡市 グループホームみのり園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームからの、行事計画や実施の状況報告、利用者の現状報告が主な内容で、協議や提言が少ないので、ホームの運営に反映させる内容を引き出すよう、協議事項や資料の事前配布を行う検討をしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームについての相談、指導の関係はスムーズであり、法人が地域包括支援センターを延岡市から受託しているので、相談や連携の幅も広がっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	カンファレンスには家族の参加を求め、双方できめ細かな情報が提供されている。家族から委託されている金銭管理は、毎月、来訪時または郵送にて収支報告が行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や苦情箱など家族の意見を把握する体制はあるが実績は少ないので、法人内で家族会がある他事業所を参考に、ホームでも積極的な家族の意見が反映されるよう、家族会の創設を検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	他事業所の職員が、ホームの職員の研修参加時や欠勤等の時、一時的にホームをサポートする（ヘルプ）仕組みがあるので、なじみの関係の必要性は理解されている。異動は退職に伴う場合等、最小限に抑えられている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回の法人内研修のほか、希望や指定により段階に応じた外部研修など、1人の職員の研修時間が年間72時間以上となるよう、勤務体制がシステム化されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県北地区グループホーム連絡協議会に、管理者及びスタッフが参加し、情報交換やケアの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの入居予定者がショートステイやデイサービス利用中であれば、利用中になじみの関係ができるよう訪ねている。家族にもホームを見学してもらい、利用者への不安の一掃や協力を依頼している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が培ってきた知識や経験を共に語っている。菜園で収穫した野菜の漬け物作りを教えてもらい、食事に供しては話題を共有し楽しんでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの会話に十分時間をかけ、求めているものを引き出すよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者を担当する職員が決まっているが、カンファレンスでは全職員によるモニタリング、見直しが行われ、それぞれの意見等が反映された介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは、利用者、家族が参加して6か月ごとに実施される。状態変化時などの必要に応じての見直しは、そのつど行われ、看護師や栄養士も参加している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	食事内容は一定の回数で、複式献立から魚や肉など好みのものが選択できる。ホーム独自の活動費による外食や誕生会の実施、ドライブ中のふる里訪問で、思い出の場所を訪れ喜ばれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医の週1回の往診や協力歯科医の往診治療、主治医やその他、専門医への通院など、利用者や家族の希望による受診支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	スタッフは看取りケアの研修を受け、法人全体でも終末期は本人や家族の意向に対応する仕組みを共有しており、家族などにも入居時の契約事項で説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常的にいていねいな言葉掛けや名前と呼ばれ、記録は目隠しスクリーンの棚に保管されている。2部屋共有のトイレは、センサーライトで使用か否かがわかるようになっており、プライバシー確保の工夫がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事後に自室に戻り30分程度過ごす取り組みが、利用者や職員にも落ち着きを与える効果があり定着している。その後 ゆったりした気分で、その日の過ごし方を話し合いながら希望に沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の準備ができる人は少なくなっているが、できる方は食台ふきや後片づけに参加している。複式献立から食べたい物を選んだり、味つけを話題に会話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜以外は毎日入浴できる体制を整え、時々入浴剤を用いて、一人ひとりのペースに合わせた時間で、温泉気分を味わってもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族や本人から聴いた生活歴を生かして、役割や楽しみごとの機会を見つけるよう努めている。利用者は洗濯物たたみ、新聞紙やチリ紙たたみにも、喜んで取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内の散歩、ドライブや買い物など、天候や体調にあわせて、積極的な外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望がある利用者がいても、鍵をかけずに一緒に歩き寄り添う支援が日常的に行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	当年度、ホームのどの窓からの脱出も可能にし、犬走りのスロープは車いす対応に改修された。法人は毎月の総合訓練のほか、夜間訓練を実施するなど、防災や災害対策に積極的な取り組みがあるが、ホームは夜勤者1名での訓練参加は困難として人数報告に終わっている。	○	ホーム独自でも夜間を想定し、訓練内容をパーツ化して、繰り返し実施することで、人、物などの課題を明確にし、夜間緊急時の対応の具体化を図っていただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士による献立に基づき、ホームで調理されている。個人ごとに摂取量は記録され、汁物やお茶の水分摂取にも配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のリビングの天井が高く、開放感がある。不快な臭気、音、光もなく居心地良く過ごせる配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの希望や、ベッドからの転落回避などを考慮して、畳やフローリングの部屋が使われている。好きな物の持ち込みができるよう家族の協力を依頼している。		

※  は、重点項目。